

タイアツッ! Vol.2

見る・使う 体圧を



体験する

SRソフトビジョン™
無料体験

ぜひ、実際に使ってみて
SRソフトビジョンの良さをご体感ください。



本当に簡単に使えるの？

素材感を知りたい

うちのパソコンにも接続できる？



●選べる2つの無料体験 数値版・数値版ワイヤレス・半身版・全身版・足圧版
すべてのラインナップに対応!

デモ機 + ご説明

どの商品が最適か相談の上、デモ機を持って訪問、若しくは、WEBにて商品の機能・使い方の説明をさせていただきます。



OR

デモ機2weeks貸出

お電話、WEB、メールでご希望の商品と利用環境をお伺いした後、デモ機をお届けしています。2週間、無料で試用していただくことができます。

TELまたはHPよりお申し込みください。フコク物産株式会社 機能品営業部
TEL:03-3765-3228 HPからのお問い合わせ
<https://fukoku-jp.net/srsoftvision/contact>

●E-mailでのお申し込み・ご相談も受け付けております。 kikaku@fukoku-bussan.jp

知る

SRソフトビジョンについてさらに詳しくは…… **ホームページへアクセス**

製品の特長や仕様、使い方など、詳しくまとめております。

SRソフトビジョン

検索



<https://www.sumitomoriko.co.jp/product/health/srsv/>



※SRソフトビジョン、SRロゴ及びSmart Rubberは住友理工株式会社の商標または登録商標です。

お問い合わせ
ご相談は **フコク物産株式会社**

〒143-8531 東京都大田区大森西2丁目32番7号
機能品営業部 Tel:03-3765-3228
<https://fukoku-jp.net/srsoftvision/>

製造元 **住友理工株式会社**

健康介護事業部 Tel:0568-77-2975
<https://www.sumitomoriko.co.jp/product/health/>

この冊子に記載している内容は、予告なく変更される場合があります。
2023/4 ver.03

特集

Special Interview

体圧測定が在宅の褥瘡ケアの質の向上につながる。

むらた日帰り外科手術・WOCクリニック
統括看護部長
皮膚・排泄ケア認定看護師

熊谷 英子 さん



VOICE

SRソフトビジョン
利用者の声を聞く

1 褥瘡対策に
チームで取り組む
意識が深まる

2 バランスの取り方が
数字で分かると、
自立評価がぐっと進展

住友理工株式会社

※掲載されている方々の氏名、所属、施設名は
本誌の作成時(2016年9月)の情報です。

誰でも手軽に
体圧分布を測定



圧力の「見える化」が、
介護・看護・リハビリの新たな可能性を広げます。



車イスの
シーティングツールに



寝たきりの方の
床ずれ予防ツールに



リハビリ
支援ツールに

SRソフトビジョン™

パソコンとセンサシートをUSBケーブルで接続するだけで、準備完了。
センサシートは断線しにくく、利用者にもやさしい柔らか素材で構成。
素材にこだわりながらも、低コスト化を実現しました。



特集 Special Interview !

体圧測定が在宅の褥瘡ケアの 質の向上につながる。



むらた日帰り外科手術・WOCクリニック
統括看護部長
皮膚・排泄ケア認定看護師

熊谷 英子 さん

- 1981年 東北大学医学部附属病院 勤務
- 1986年 東北大学医学部附属病院 第一外科ストーマ外来担当
- 1995年 東北大学医学部附属病院 副看護部長
- 2000年 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
- 2003年 東北大学病院 全国ではじめてのWOCセンター開設 専任
- 2010年 東北大学大学院医学系研究科 障害科学専攻内部障害学分野
博士前期2年課程修了 修士(障害科学)
- 2011年 東北大学病院 看護師長
- 2014年 むらた日帰り外科手術・WOCクリニック 勤務
統括看護部長
現在に至る

「体圧を測ると、在宅ケアに関わる人たちのチームワークが格段に高まるんです」と語る熊谷英子さん。在宅ケアの大きな課題である「褥瘡の悪化」が、体圧測定によって改善されるといいます。なぜ体圧を測定すると、そのような成果が生まれるのでしょうか。在宅ケアの最前線で活躍する熊谷さんに、その理由をうかがいました。





体圧測定が在宅の褥瘡ケアの質の向上につながる。

在宅の現場に褥瘡ケアが浸透していない

東日本大震災に遭ったのを機に、「皮膚・排泄ケア認定看護師である自分の力を地域に役立てたい」との思いから、大学病院から在宅の世界へと飛び出した私。そんな私を待っていたのは、褥瘡ケアが浸透していない在宅ケアの現実でした。

大学病院時代、皮膚・排泄ケアを地域に根付かせようと、訪問看護ステーションなどを対象に公開講座を意欲的に行っていました。ところが、いざ現場に出てみると、私たちが公開講座を行った訪問看護ステーションは氷山の一角に過ぎず、在宅ではまだまだ褥瘡ケアが定着していないことがわかりました。

病院に入院している間は、患者さんは看護師による褥瘡ケアを受けられます。しかし自宅に戻ったとたん、そのケアが途切れてしまうのです。訪問看護師、ヘルパー、理学療法士など、在宅に関わる各職種が褥瘡ケアについて同じ情報を共有できていないため、

褥瘡がいつまで経っても改善されない。それが、私が目の当たりにした現実でした。

「体圧の可視化」が関係者の能力を引き出す

でも、あるキーワードによって各職種の連携が進み、重度の褥瘡が在宅ケアだけで劇的に改善する、という事例を体験することができました。

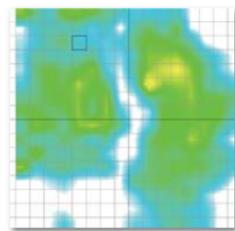
そのキーワードとは『体圧の可視化』です。

それは、ある60代の糖尿病患者さんの例です。片足を切断したあと在宅生活に入られたのですが、

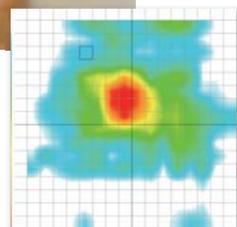
SRソフトビジョンを使った体圧の確認 (60代の糖尿病患者さんの例)



仰臥位の体圧を確認



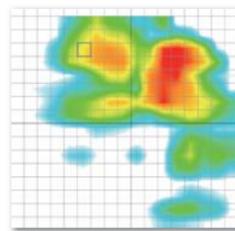
仙骨部の圧迫が解除できていることを確認



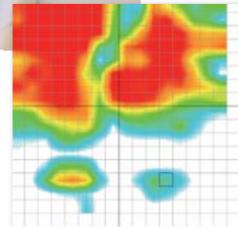
SRソフトビジョンによる測定で仙骨部に圧が集中していることを確認



ベッド上座位の体圧と姿勢の確認



SRソフトビジョンで確認しながら、正しい姿勢を確認する



これまでの頭側挙上時の状態。右下肢切断のために左側に圧が集中している

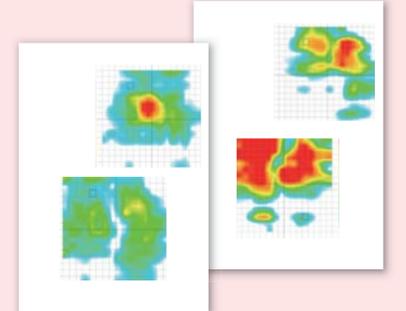
SRソフトビジョンのココが便利!



体圧の分布が色で分かるので、誰が見ても理解できる。タブレット端末のほか、スマートフォンでも確認が可能



SRソフトビジョンは軽くて持ち運びしやすいところがいい



リアルタイムでの体圧の確認はもちろん、プリントアウトしたものをベッドサイドに貼っておくことで、ケアの共通化が図れる

誰がやっても同じケアができるように

在宅ケアの現場には、さまざまな問題が横たわっています。例えば老老介護の場合、家族による「介護力」が不足しているため、体圧変換すら満足にできません。また、介護施設でも、スタッフが交代するたびに除圧のやり方が変わり、一定レベルの体圧分散ケアを継続できないという課題があります。

だからこそ、看護のプロだけでなく、ヘルパーや家族にもできる「体圧分散ケアの共通化」が必要。そのきっかけを作るのが、体圧がひと目で分かり、必要なケアの手がかりを示してくれる「体圧の可視化」なのです。

褥瘡ケアでは、あらゆる関係者が体圧に関して同じ情報を共有し、連携してケアに当たることが非常に大切です。それが体圧分散ケアや褥瘡予防への意識を高め、地域全体の褥瘡ケアの質の向上につながると思っています。

体圧変換も十分できず、大きな褥瘡ができてしまいました。私たちが在宅褥瘡対策チーム(医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、訪問管理栄養士)は、主治医、訪問看護師、理学療法士などと、褥瘡の治癒を目指すとともに、褥瘡の原因を取り除くケアにも取り組みました。

このとき実感したのが、チームメンバーによる情報共有の重要性です。褥瘡の状態や患者さんの情報を交換し合うことで、訪問看護師による創部のケア、訪問管理栄養士による食事指導、理学療法士によるポジショニングの指導などを連携して行うことができました。

そして、体圧情報を共有する上で役立ったのが、体圧を可視化するセンサー「SRソフトビジョン」です。実は、褥瘡が改善され始めたとき、体圧分散のために高機能マットレスの変更を考えました。しかし、使い慣れたマットレスを変えることに、患者さんが抵抗感を示されたので、SRソフトビジョンを使ったところ、患者さんはもちろん、ご家族、理学療法士、マットレスメーカーの担当者にも、体圧のかかり方や除圧すべき部位がはっきりと見て取れました。また、どこにクッションを入れればより除圧できるかまで、モニターを見ながらご家族にアドバイスでき、マットレス交換も納得の上で行うことができました。

その結果、在宅ケアだけで褥瘡が見事に治癒。「体圧の可視化」によって、対策チーム、患者さん、ご家族が体圧情報を共有し、連携できたことが功を奏したのです。



在宅主治医チームと在宅褥瘡対策チームとともに

VOICE

SRソフトビジョン
利用者の声を聞く

01

褥瘡対策編

褥瘡対策にチームで取り組む 意識が深まる



医療法人福西会 福西会病院
看護部 看護師

高木 良重 さん



リハビリテーション科 係長
理学療法士

土屋 恵睦 さん



リハビリテーション科
理学療法士

松岡 里佳 さん



病院概要

法人名 医療法人 福西会
 病院名 福西会病院
 理事長 白日 高歩
 院長 白日 高歩
 病床数 198床
 所在地 福岡県福岡市早良区野芥
 1丁目2-36

看護師とセラピストが連携して SRソフトビジョンを活用しているそうですね。

高木 以前から褥瘡対策においてリハビリスタッフとの連携をしていましたが、そんな中で感じていたのは、体圧を「点」ではなく「面」で測る必要性でした。ですから、広い範囲の体圧をビジュアル化できるSRソフトビジョンの存在を知ったとき、座位や仰臥位だけでなく、ギャッジアップ時などの動的な体圧測定もできるのではないかと思います。

松岡 現在、リハビリスタッフである私たちも週1回の褥瘡回診に関わっています。その中でSRソフトビジョンを用いた体圧測定を行っています。単に数値を測るだけではなく、退院後の在宅生活まで想定した測り方をしています。例えば、在宅で寝姿勢が多いと予測される場合は、臥位での体圧を測定。車椅子で長く過ごせる場合は、座位での体圧測定をメインに行っています。

体圧をビジュアル化することのメリットは どこにあるのでしょうか。

松岡 スタッフ間に共通理解が広がるのが大きなメリットではないでしょうか。「この姿勢のときは、ここに負荷がかかっている」ということが一目で分かるので、姿勢改善やクッション選びがスムーズになります。

高木 以前、介護施設の看護師から、彼女がケアしている利用者さんの車椅子姿勢について相談されたことがあります。当院のSRソフトビジョンで体圧のかかり方を提示したところ、この利用者さんに必要な体圧分散ケアが分かっただけでなく、なぜそれが必要なのか施設のスタッフに説明をする上で確かな根拠になったと、とても喜んでくれました。



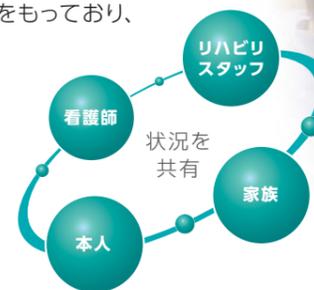
土屋 体圧のビジュアル化は、姿勢改善の意識付けにも役立ちます。姿勢の専門家でない人が、車椅子の座位姿勢を見ただけで問題を把握するのは不可能ですが、体圧がビジュアル化されると、患者さん本人やその家族にも何が問題なのか一目瞭然になり、「姿勢を改善しなければ」という意識が生まれます。



SRソフトビジョンによる体圧評価で、 褥瘡が改善された事例はありますか。

松岡 はい。あるご高齢のご夫婦で、ご主人が奥様を介護していらっしゃるケースがありました。ご主人はとても介護熱心でしたが、独自のケアをかたくなに守っておられました。しかし、褥瘡が重症化して来院。SRソフトビジョンで体圧評価したところ、お使いのクッションでは体圧がうまく分散されていないことが分かりました。そのことを、徐々に私たちの言うことを分かってくださり、クッション交換を前向きに検討してくださるよう。その結果、2ヶ月ほどでかなり褥瘡が改善されました。

高木 当院のリハビリスタッフは高い技術をもっており、SRソフトビジョンがなくても治療に向けて姿勢を調整することができます。でも、体圧分布を画像で見せられると、自分たちの考えを家族や本人に説得力を持って伝えられるんです。



SRソフトビジョンをさらに活用することで、 どんな取り組みが可能になるでしょうか

松岡 病棟の看護師から「こんな姿勢を取ってみたいけど、一度評価してもらえますか」といった相談をたくさんいただくようになりました。いっしょに体圧を見ながら姿勢を検討するなど、以前よりも「チームで褥瘡対策に取り組んでいる」という意識が強くなったと感じています。

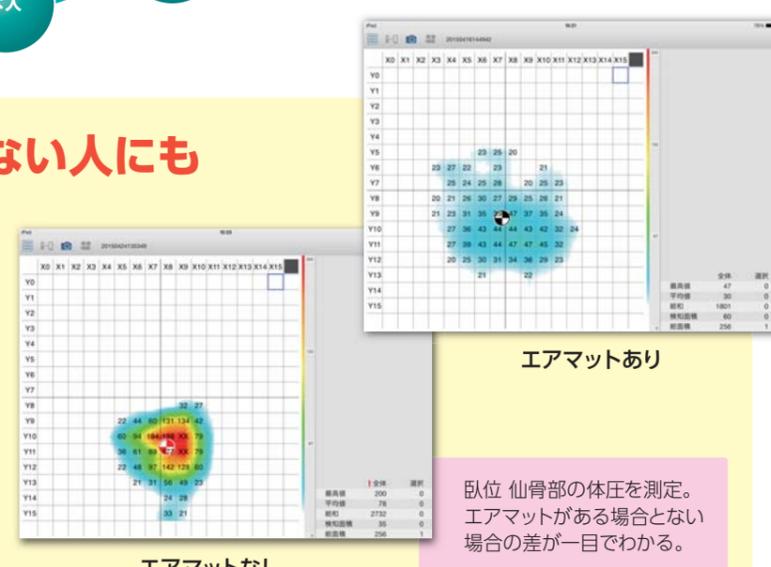
土屋 ベッドのマットレスを選択するときの評価・検証をしてみたいですね。SRソフトビジョンがあれば、そのマットレスが患者さんにとって本当に望ましいかどうか、こちらで追試していくことができます。

高木 褥瘡ができると、つい傷の処置にばかり目が行きがちですが、重要なのは、早期対応によって褥瘡を重症化させないことです。栄養、清潔、排泄などと同じように体圧に目を向けることで、褥瘡の改善につながると思います。また、褥瘡予防としても大切なことです。



ココがポイント! リハビリに詳しくない人にも 分かりやすい

SRソフトビジョンを用いた褥瘡対策事例を、第13回日本褥瘡学会の九州・沖縄地方学術大会で発表しました。以前、他の学会発表でSRソフトビジョンを用いない事例を発表したこともありますが、今回の発表では、体圧分布を視覚的に示すことができたので、**リハビリに精通していない方にも分かりやすかったと思います。**体圧評価の重要性を知ってもらうには、**ビジュアルで訴えかけるのが一番だと再認識しました。**



褥瘡治療におけるリハビリテーション科の関わり～SRソフトビジョンを使用した評価～ 資料より

VOICE

SRソフトビジョン
利用者の声を聞く

02

リハビリテーション
編

バランスの取り方が 数字で分かると、 自立評価がぐっと進展



福岡リハビリテーション病院
リハビリテーション部
理学療法士
光安 達仁 さん

SRソフトビジョンを ユニークな方法で使用されていますね。

脳卒中片麻痺の患者さんが、座った状態でどこまでバランスが取れるかという動的評価の研究に使用しています。従来の評価は、立ったり座ったりした状態でどこまで手を伸ばせるかというリーチテストで行っていましたが、車椅子を使用している患者さんはそもそも立てませんし、座ってテストしたとしても、麻痺がある場合は手を伸ばすことができません。また、手は伸ばせても体の重心を移動できていない場合は、正確なバランス評価ができない、という問題点もありました。それを解決するために着目したのが、SRソフトビジョンです。

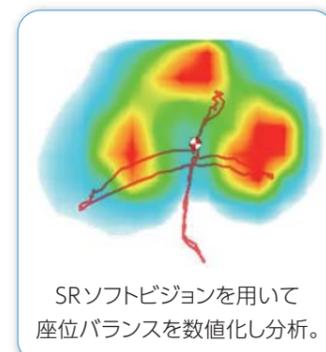
実際にはどのような使い方を？ 褥瘡との関連性をみる目的ではないと聞いています。

片麻痺や小脳梗塞の患者さん21名を対象に、SRソフトビジョンの上に座ってもらい、バランスがとれるギリギリまで前後左右に動いてもらうことで、体圧がどう変化するかを測定しました。併せて、面圧の中心がどんな軌跡を描くのかも観察。SRソフトビジョンは体圧が数字で表示されるので、こうした数値分析を伴う研究が可能です。

研究の結果、座位姿勢での左右の動きとADL（日常生活動作）との間に関連性が認められました。つまり、座った状態で動いたときの体圧を数値で見ることで、着替え、食事、車椅子からトイレへの移動などの日常生活ができるかどうかの評価につながられる、ということが分かったのです。



病院概要
施設名 医療法人 博仁会
福岡リハビリテーション病院
理事長 原 道也
院長 木原 亨
病床数 228床
所在地 福岡県福岡市西区野方
7丁目770番地



SRソフトビジョンを用いて
座位バランスを数値化し分析。



腕を組み前後左右に重心移動を実施

操作が簡単な
SRソフトビジョンなら、
座位バランステストが
短時間でできる。

テスト時に体を大きく
動かす必要がないので、
患者さんの負担も少ない。

ココが
ポイント!

座った状態での動作を体圧測定することで、 どんな変化が起こるのでしょうか。

リハビリ現場の悩みを一つ解決できるかもしれない、と思っています。この研究結果は、2016年5月に行われた「日本理学療法学会」で発表したのですが、そのとき、多くの理学療法士が「これだ!」という座位バランス評価法がなくて困っていることが分かりました。ある人は体重計を使ったり、ある人は立ち直りの反応を目で確認したり。要するに、評価の手法がバラバラなのです。もしも、座位バランスを「数字」というゆるぎない指標で評価する方法が確立できれば、このくらいの数字なら自立とみなせる、という明確な判断基準ができます。もちろん、リハビリによってどれだけ機能回復できたかという判定にも使えるでしょう。



座位バランスを数値化
日本理学療法学会の発表資料より

セラピストの客観的な判断に役立つ、という わけですね。 今後はこれをどう発展させたいとお考えですか。

麻痺がある側、ない側それぞれで、座位バランスの数値がどう変化するか検証してみたいですね。例えば「何cm動けたら機能改善が進んだと見なされる」というような数値基準ができると、リハビリ現場にかなり貢献できると思います。

また、面圧中心点の動きをリアルタイムで追えるのもSRソフトビジョンの面白いところ。片麻痺の患者さんが座って動作している間、どのようにバランスを取っているのかが面圧中心点の軌跡ではっきり分かります。例えば、左右にきちんと動いているように見えた患者さんが、実は斜め前に動いていたということが、軌跡をたどることで一目瞭然になります。このような動的評価を従来の評価に組み入れることで、いまよりもっと見えてくるのが増えるのではないのでしょうか。

ココが
ポイント!

リハビリの「ビフォー」「アフター」に 活用できる

座っているときの患者さんの動きをビデオ撮影したものと、SRソフトビジョンによる体圧分布の変化を並べて見比べると、どんな動きのときに体圧がどう変化したかを視覚的に確認できます。例えば、リハビリ初期のころはうまく重心移動ができていなかったのが、リハビリ後期になるときちんと重心移動できるようになっていることが、**体圧を視覚化することで手に取るように分かります。**

さらに、これを患者さんに見せれば、**リハビリでどれだけ効果が上がっているか実感できます。**軽度の麻痺の場合は、自分で姿勢や動作を見直すバイオフィードバックにも活用できると思います。



やさしく、使いやすく、リーズナブルに
—誰でも手軽に体圧分布を測定—

車イスの
シーティングツールに

寝たきりの方の
床ずれ予防ツールに

リハビリ
支援ツールに

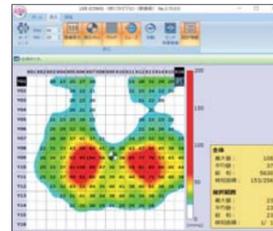


数値版 数値データによる測定可能

256(16×16)箇所の圧力を数値で表示。
数値データによるデータ解析が可能。

付属品 センサー1枚
USBケーブル1本
取り扱い説明書

メーカー希望小売価格
378,350円(税別)

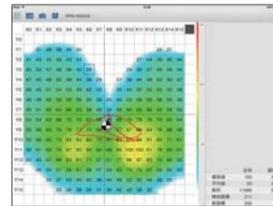


数値版ワイヤレス スマートフォン・タブレットでの表示が可能

無線LANで接続を実現。操作性とポータビリティが向上。

付属品 センサー1枚
USBケーブル1本
無線化ユニット1台
取り扱い説明書
※タブレットなどの表示端末はシステムに含まれません。

メーカー希望小売価格
438,350円(税別)

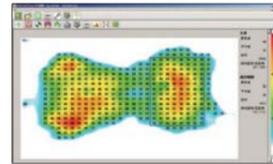


半身版 肩から腰までの計測が可能

全身版に比べて小さく、重さも半分なので、持ち運びが容易です。

付属品 センサー1枚
USBケーブル1本
取り扱い説明書
キャリーバッグ

メーカー希望小売価格
658,800円(税別)



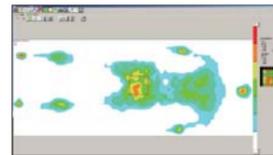
全身版 頭から足先まで、全身の圧力分布を可視化

圧力分布状態が誰でもひと目でわかるほか、
圧力の大きさを数値で確認できます。

付属品 センサー1枚
USBケーブル2本

取り扱い説明書
キャリーバッグ
※Webカメラは、付属しておりません。

メーカー希望小売価格
885,500円(税別)

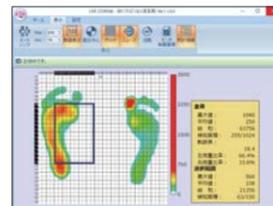


足圧版 立位における足圧分布表示が可能

左右荷重比率、面圧中心の移動軌跡長計測が可能。

付属品 センサー1枚
USBケーブル1本
取り扱い説明書

メーカー希望小売価格
540,000円(税別)



さらに詳しくは・・・ [ホームページへアクセス](#)

住友理工の“モノ”づくり

社会のあらゆるシーンで使われている住友理工の製品。その多くは、普段なかなか目にすることはありませんが、見えないところで私たちの暮らしを支えています。

たとえば、移動に欠かせない自動車や、電車・新幹線など鉄道車両の台車部、日本の伝統的な木造家屋や都心部にそびえ立つ

高層ビル内部。ミクロンレベルの精度が要求されるプリンター・複写機の心臓部から巨大な橋の橋脚まで—当社製品の活躍の場は大きく広がっています。

住友理工は、創業以来培ってきた高分子材料技術と総合評価技術、そしてモノづくりの精神で、明日の快適を創造し続けます。



都市の創造や再生を担う建設・土木機械。住友理工の高圧ホースは、建設現場で活躍するショベルカーや、資源掘削(マイニング)用の超大型油圧ショベルカーなどに使われ、高い耐久性を実現しています。



「リフレッシュ」は窓ガラスの内側に貼り付けるだけで節電対策に繋がる高機能透明フィルムです。高い透明性を維持したまま、夏の熱線をカット(反射)し、冬の暖気を逃しません。



IT化の進む現代でビジネスや教育に欠かせない情報通信機器。プリンターや複写機の心臓部には、画質を大きく左右する住友理工の重要機能部品が詰まっています。



最も身近な移動手段である自動車。ドライバーと同乗者の「安全」「安心」はもちろん、さらなる「快適」の提供を目指すのが住友理工の自動車用品です。世界シェアトップ*の防振ゴムや国内シェアトップ*のホース、エンジンカバーやシートといった高い品質の制震部品・内装品は、振動を低減し、静粛性を高め、一段上の乗り心地を実現しています。



※当社調べ